



MATSUYA
R&D

Think sewing Think future

2024年3月期 決算説明会資料

株式会社松屋アールアンドディ | 証券コード: 7317

2024年5月



▶ **01 2024年3月期 実績**
02 成長戦略

2024年3月期実績:サマリー

- 主にセイフティシステム事業においてカーシート及びエアバッグにおいて新規取引により取引量が拡大したほか、円安効果もあいまって**大幅な増収増益**となった。
- 2023年9月にベトナム新工場が稼働開始。工場集約による効率化によりコスト削減効果も影響。

(単位:百万円)	2023.3 実績(A)	2024.3 実績(B)	前年同期比 (B/A)
売上高	7,164	8,433	117.7%
売上総利益	1,458	2,295	157.4%
売上総利益率	20.4%	27.2%	+6.8
営業利益	611	1,283	209.7%
経常利益	675	1,307	193.6%
税金等調整前当期純利益	671	1,307	194.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	425	953	223.9%
1株当たり当期純利益(円)	20.17	45.03	223.3%

※当社は2023年7月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行いました。
1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

2024年3月期:セグメント別売上高&利益

- メディカルヘルスケア事業は、円安効果のほか、ベトナム新工場における省人化・効率化などで増収増益となりました。
- セーフティシステム事業においてはカーシート及びエアバッグにおいてベトナム工場での新規取引開始のほか、エアバッグメーカー向け縫製自動機の受注増加により増収増益となりました。

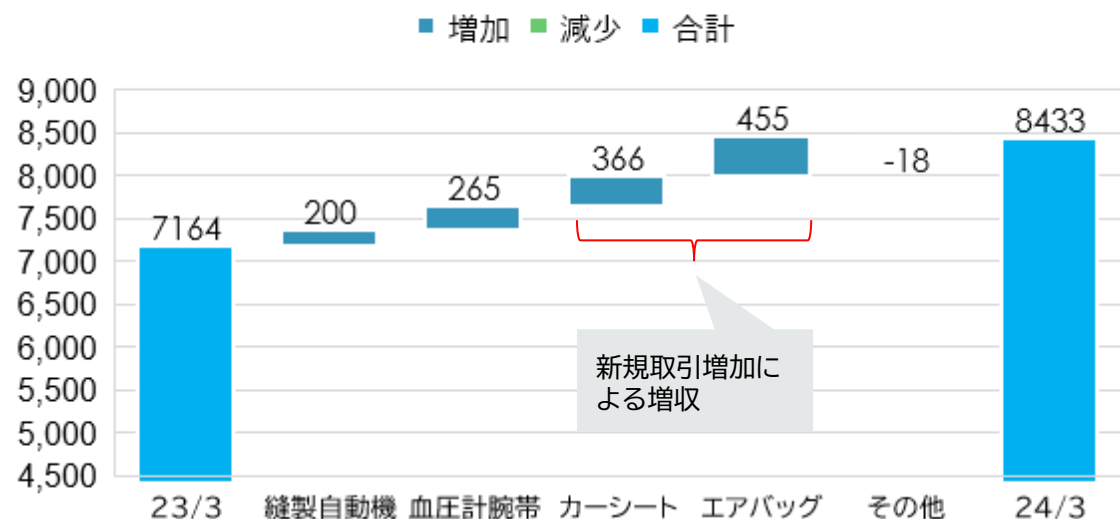
(単位:百万円)

	2023.3 実績(A)	2024.3 実績(B)	前年同期比 (B/A)
売上高	7,164	8,433	117.7%
メディカルヘルスケア事業	5,134	5,374	104.7%
セーフティシステム事業	2,006	3,014	150.3%
その他	23	44	187.2%
セグメント利益又は損失(△)	611	1,283	209.7%
メディカルヘルスケア事業	1,221	1,392	114.1%
セーフティシステム事業	△349	166	—
その他	2	18	872.1%
調整	△262	△295	—

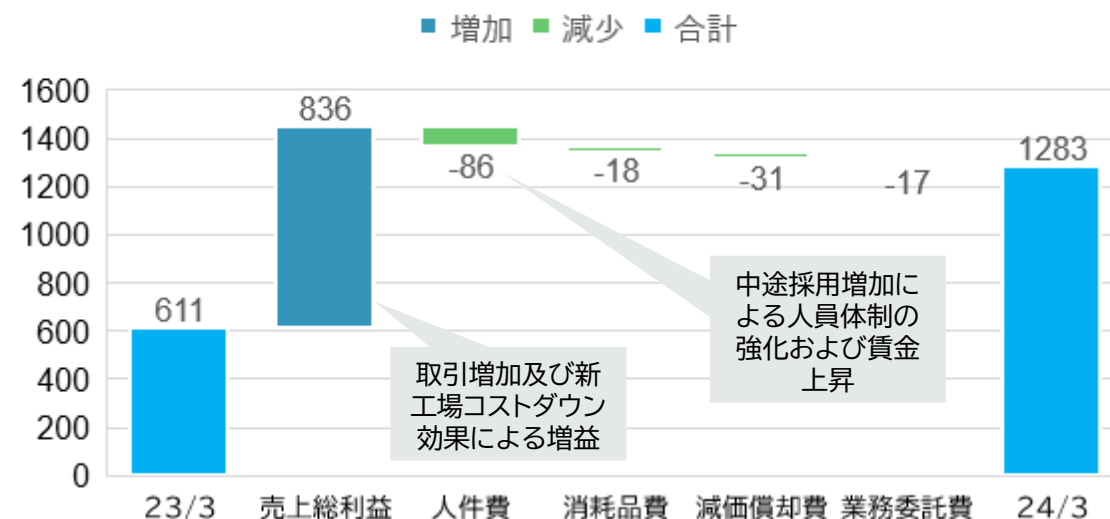
2024年3月期実績:売上高及び営業利益の増減

- 売上高では、主にセイフティシステム事業における生産委託取引の増加および縫製自動機の販売拡大が売上増加に貢献した。
- 利益面では取引増加に加え、ベトナム新工場稼働による集約効果によるコスト削減により大幅増益となった。

売上高



営業利益



2024年3月期:連結貸借対照表

(単位:百万円)	2023.3 実績	2024.3 実績	増減
現金及び預金	2,343	2,250	
売上債権等	1,351	1,734	取引増加による影響
棚卸資産	2,324	2,713	取引増加による影響
有形無形固定資産	2,403	2,925	新工場における建設費用の支払による増加
その他	319	298	
資産合計	8,743	9,922	
仕入債務	586	609	
借入金(長期含む)	2,618	2,654	
リース債務(長期含む)	468	188	
その他	1,295	1,276	
負債合計	4,968	4,729	
純資産合計	3,775	5,193	
負債純資産合計	8,743	9,922	

2024年3月期:連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2023.3 実績	2024.3 実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	914	528
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,279	△616
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,220	△182
現金及び現金同等物の換算差額	△3	123
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	851	△147

営業活動によるキャッシュ・フロー
利益は増加しているものの、縫製自動機の大口案件の受注が継続しているほか、ベトナムでの取引量の増加により、売掛金、棚卸資産の増加していることで、前期比では減少。

投資活動によるキャッシュ・フロー
主に松屋ベトナム新工場建設資金の支払によるもの。

財務活動によるキャッシュ・フロー
松屋ベトナム新工場投資のための調達資金の返済開始したことによるもの。

(単位:百万円)

	2023.3 実績	2024.3 実績
減価償却費	268	275
設備投資	△1,272	△607

2024年度(2025年3月期)業績予想

- 2025年3月期はメディカルヘルスケアは血压計腕帯については血压計市場の成長を背景に安定成長を見込む。
- セーフティシステム事業はカーシート、エアバッグでの前年度期中で開始した新規取引が年間で寄与してくるほか、ベトナムでの生産委託は増加傾向にある。
- ベトナム新工場が昨年9月に稼働開始しており、2025年3月期は新工場での集約効果が年間で寄与する見込み。

(単位:百万円)	2024.3 実績	2025.3 業績予想	増減率
売上高	8,433	9,000	106.7%
営業利益	1,283	1,540	120.0%
経常利益	1,307	1,527	116.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	953	1,204	126.3%
為替レート(USD/JPY) 4月～3月平均 2025.3は予想	144.62	140.00	
為替レート(VND/JPY) 4月～3月平均 2025.3は予想	0.0059	0.0056	

01 2024年3月期 実績

▶ 02 成長戦略

メディカルヘルスケア事業およびセイフティシステム事業の拡大

- ベトナムを中心とした生産基盤をもとに3D縫製自動化ラインなど自動化に取り組み、メディカルヘルスケア事業及びセイフティシステム事業のそれぞれの受注を拡大する。
- 既存事業にとどまらず、新たな事業へ果敢に挑戦する。

↑
新たな業界への拡大
↓

Medical Healthcare

メディカルヘルスケア事業



Safety System

セイフティシステム事業



- 血圧計腕帯の取組強化
(工程の自動化推進、サプライチェーン見直しなど)
- リハビリロボット事業の強化(新製品導入なども取り組む)
- ウェアラブル機器など新しい事業領域への進出
- **ベトナム新工場の安定稼働、MIC開発力強化** P.10
- **縫製自動機事業の海外販売の強化** P.11 P.12
- エアバッグ・カーシート事業での取引拡大
- 新たな事業領域への進出
(裁断工程の効率化サービス、生産管理システム etc) P.13
- **ドローン用エアバッグの開発** P.14

ベトナム生産受託事業の拡大：松屋ベトナム新工場完成

- 2023年9月8日にベトナム新工場の開所式が開催され、稼働開始となりました。
- 今後は開発部門Matsuya Innovation Centerのもとに、最先端の技術を駆使して、工程内のさらなる自動化、集約による効率化を推進し、新たな取引獲得も目指します。

開所式の様子



工場外観



門型縫製自動機の開発

概要

- 門型プログラム式電子ミシンは、ミシンが横軸で移動し、素材を載せたパレットが縦軸で移動する門型方式を採用することで、機械の小型化で従来よりも省スペース化を実現しています。
- 一時停止することなく全縫製エリアを縫うことが可能であり、サイクルタイムを短くすることができるほか、多台持ちにより省人化も可能となります。
- 自動パレットチェンジ機構や自動ボビンチェンジャーなどのオプションをつけることでお客様の様々なご要望に対応可能であり、自動車のエアバッグ、自動車内装、家具、航空機、船舶など幅広いニーズに対応します。

(受注状況)

2023年12月にメキシコ向けで2台受注

2024年1月にインド向け縫製ラインに9台採用

門型プログラム式電子ミシン



メキシコ支店の設立

概要

当社のセイフティシステム事業における成長に向けた取り組みとして、海外での設備投資需要の回復を取り込むべく、海外における営業体制の構築を掲げております。その中で、最新式の門型プログラムミシンの受注など、メキシコでの取引も今後増加する傾向が見込まれます。

このような状況の中、メキシコに支店を設けることで、同地域での顧客の自動化ニーズをタイムリーに収集し、顧客対応の充実と取引拡大を図ってまいります。

(メキシコのビジネス環境) ※

- ・メキシコ国内での内需拡大 + 対米輸出を背景にインドに次いで、現地日系企業の営業利益が改善傾向にある。
- ・メキシコで事業展開している日系企業の半数以上が事業拡大と回答、生産機能強化の声が目立つ
- ・人件費は高騰しており、工場作業員不足が深刻化→自動化のニーズが高い



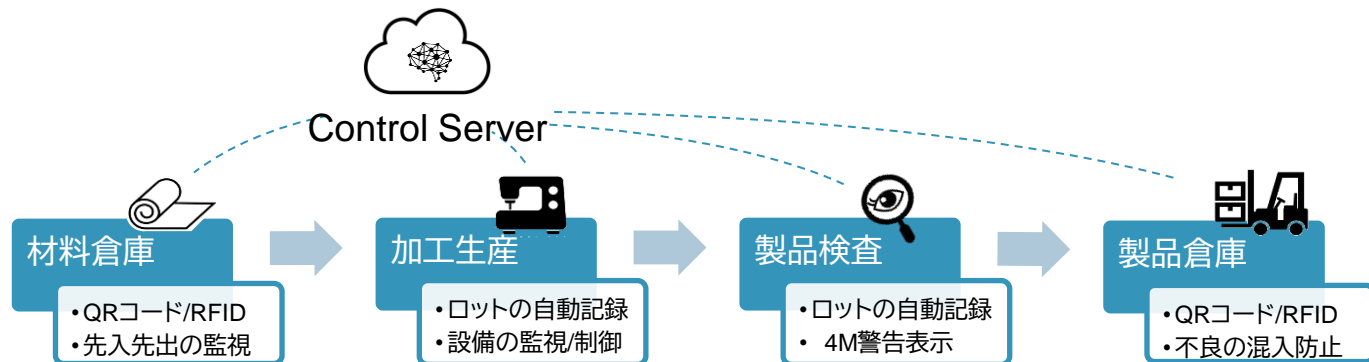
新たな事業領域への進出：生産管理システム

VTT Platform(生産管理システム)について

Matsuya Innovation Centerでは、エアバッグ等の安全部品に求められる高い管理水準を満たすため、独自の生産管理システムであるVTT Platformを構築しました。

通常では、記録すべき情報を紙へ記入もしくはシステムへ手入力するという方法を取りますが、VTT PlatformではIoTを活用し、正確な情報を自動的に収集します。

これは製造現場を記録の負担から解放するだけでなく、その正確な情報を積極的に活用することで、現場の見える化、在庫数量の厳密な管理、生産工程のポカヨケなどの機能を実現。お客様のための意味のあるDX化に貢献いたします。



ドローン用エアバッグ:米国での特許取得

ドローン用エアバッグ

- 当該特許はエアバッグを搭載したドローンが安全飛行できない状態、落下状態などの緊急時にエアバックを開かせることに対するものです。
- 当社グループのドローン用エアバッグに関して、日本、中国、欧州、アメリカの主要国で特許を取得しました。今後はMIC(松屋イノベーションセンター)での筐体開発を急ぎ、早期販売に向けて注力してまいります。

2023年11月にアメリカでの縫製自動機の特許取得

特許名: Drone with airbag(エアバッグ付きドローン)

米国特許番号: 11772597



- 安定収入を生み出すベトナムを中心とした生産基盤を活かし、次世代縫製自動機の開発及び新規事業を中心に経営資源を投入し、持続的な成長を目指します。



本資料の取扱について

本資料には、将来に関する見通しや、事業戦略が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性が含まれており、実際の業績等が、これらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業界、ならびに市場状況、金利、為替変動等の国内外の経済状況が含まれます。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等については当社は何ら検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。